

## エジプトの柑橘類事情(オレンジ)

米国農務省GAINレポート 2023年12月19日

これは米国農務省海外農業局のカイロ事務所(エジプト)が作成した「柑橘類年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

## 要旨

当事務所は、2023/24販売年度(以下「年度」)において、生鮮オレンジの輸出量が2022/23年度の160万トンから200万トンに増加すると予測する。当事務所は、この増加は、良好な環境条件の中で面積当たりの収量が増加したこと、エジプト産オレンジの新市場開拓に成功したこと、及び農場生産の登録と監視を行うトレーサビリティシステムが成功したことによるものであると考える。エジプトの生鮮オレンジの輸出先上位10か国は引き続き、オランダ、ロシア、サウジアラビア、インド、アラブ首長国連邦、スペイン、バングラデシュ、シリア、中国、英国となる可能性が高い。

## 栽培面積

当事務所は、2023/24年度のオレンジの総栽培面積を、前年度と同じ16万8千ヘクタールと予測し、総収穫面積も前年と同じ15万1,200ヘクタールと予測する。栽培と出荷にかかるコストが上昇したため、生産者は新しい果樹園を設置するよりも、面積当たりの収量を増やすことに注力した。

ここ数年、生産者が他の種類の果実よりもオレンジの栽培を好むようになったのは、国際市場でのエジプト産オレンジの需要の高まりと、主に東南アジアでの新市場開拓に向けた官民共同の取り組みが成功したことが主な理由であった。

オレンジの栽培面積はその大部分が干拓地で、総面積の55%を占めている。ナイルデルタ地帯(北部のナイル川河口)の大規模果樹園は、オレンジ栽培面積全体の45%を占めている。

エジプトのナイル川上流(南エジプト)では、生産者は2月上旬にオレンジを植栽することを好むが、デルタ地帯では植栽のシーズンは3月まで続く。オレンジの木は植えてから4年後に結果を開始する。果樹は最大50年まで栽培できるが、20年を過ぎると生産量は減少する。

## 生産

当事務所は、2023/24年度のオレンジ生産量は、前年度の推計生産量360万トンに対し、2.7%増の370万トンと予測する。この生産量の増加は、開花期の最適気温と気象条件に起因し、着果量と生産量が増加した。過去10年間、小規模生産者も商業的な農場も、価値の高い輸出市場への大量出荷を維持するために、清浄な果実の生産に注力してきた。

オレンジはエジプトの主要な柑橘類であり、柑橘類の栽培面積全体の約70%を占めている。エジプトでは数種類のオレンジ品種が生産されているが、表1に4つの主要なタイプを示す。バレンシア種とネーブル種が主な輸出品種であり、その他はむしろ国内消費向けである。

表1 エジプトの主なオレンジ品種

バラディオレンジ	種有りと種なしの2種類のバラディオレンジが栽培されており、どちらも主に果汁用に使用される。
バレンシアオレンジ	夏の品種で、主に果汁用だが、生鮮でも消費される。
ネーブルオレンジ	国内で消費される早生ネーブルと、輸出される晩生ネーブルの2種類。
スイートオレンジ(スッカリ)	生鮮で消費される種有りの非常に甘い品種(シュガーオレンジ)

エジプト農業輸出協議会(AEC)の柑橘類委員会は、果実の成熟パラメータと着色に基づいて収穫を開始する時期を決定する。輸出シーズンは一般的に11月中旬に始まり、冷蔵貯蔵のものを含め7月下旬まで続く(表2)。

表2 主なオレンジ品種の季節性

品種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ネーブル種	*	*	*	*	*	*						
パラディオレンジ			*	*	*	*						
スイートオレンジ (スッカリ)			*	*	*	*						
バレンシア種				*	*	*	*	*	*	*		

出典: エジプト農業輸出協議会

エジプトの商業的な農場や生産者は、果樹園の病害虫防除に、総合的病害虫管理(IPM)の手法を使用している。IPMは、生物学的防除やその他の管理ツールを使用して、可能な限り環境に配慮した方法で病害虫を効果的に防除するものである。生産者協会に加えて植物防疫協会(PPI)と園芸研究所(HRI)が、オレンジ果樹園に影響を与える病害虫に関する主要な情報源であり、最良の管理ツールと農法に関する推奨事項を示している。

オレンジはエジプトの主要な輸出果実であるため、エジプト政府は(国内の生産者や輸出業者とともに)エジプト産オレンジの品質向上に常に熱心である。品質の向上は、輸出需要を維持し、世界の輸出国と競争する上で重要である。

エジプト農産物輸出協議会(AEC)と農業省(MALR)の植物検疫中央管理局(CAPQ)は計画と手順を常に更新し、適用中のトレーサビリティ制度をオレンジ農園が遵守することを義務付けている。新しい制度は、輸出を行うオレンジ農園を登録、コード化し、生産量と品質を特定することを目的としている。

## 消費

当事務所は、2023/24年度の生鮮オレンジの国内消費量は17.6%減の140万トンと予測する。国内消費の減少は、輸出の増加が見込まれるため国内市場への供給がわずかに減少し、価格が上昇する可能性があるためである。2023/24年度の加工部門のオレンジ使用量は、前年度と変わらないものと予測される。

## 輸出

当事務所は、2023/24年度のオレンジの輸出量が25%増加し200万トンに達すると予測する。この増加は、面積当たりの収量の増加、エジプト産オレンジの新しい輸出市場の開拓、さらに農場を登録・監視するエジプト版トレーサビリティ制度の成功によるものと考えられる。また、消費者需要が高まる中での世界的な価格上昇も、輸出量の増加に寄与すると見られる。当事務所は、エジプトが2023/24年度もオレンジ輸出量世界第1位の地位を維持すると予想する。

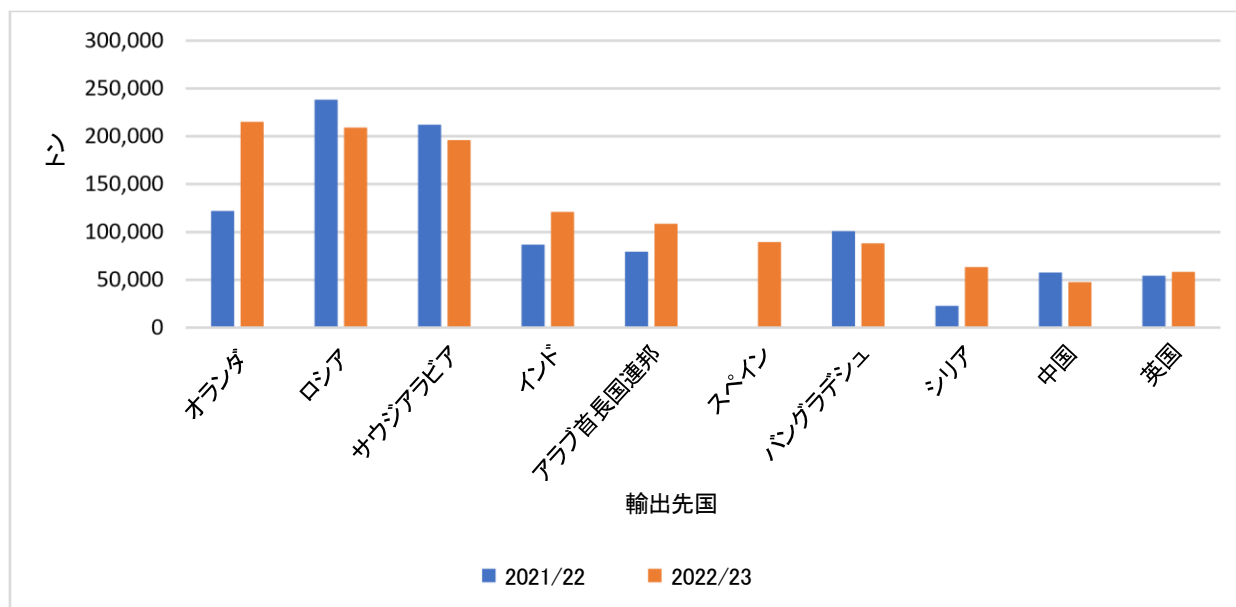
農業省は、輸出体制を強化するための措置を講じた。農業省は2021年に、決定116/2021によりコード化制度を適用した。この決定は、全地球測位システム(GPS)を介して農場の位置をアップロードし、オレンジ及びその他の農作物の輸出に使用されるすべての農場と梱包施設を登録するなど、農場からの物流を調整する手順を定めている。

シーズンを通して、植物検疫中央管理局(CAPQ)は生産を監視し、サンプルを採取し、輸出要件が検証されていることを確認する。CAPQは(農産物輸出協議会(AEC)とともに)、エジプト産オレンジが貿易相手国の植物検疫規制を遵守し幅広い国際市場に参入できるよう支援している。また、AECとCAPQは引き続き、一連の要件を遵守することで輸出が可能になった登録済みの園地と梱包施設のリストの作成において協力している。この制度は、輸出用の生産物の品質を向上させ、輸入国の植物検疫要件への準拠の度合いを高めている。

ほとんどのオレンジ輸出業者は、政府によって輸出が承認された梱包施設を所有する生産者である。また、こうした生産・輸出業者は、生産量が輸出義務を満たすのに十分でない場合は、地元の生産者から果実を購入する。これ以外の輸出業者は梱包施設を所有しているがオレンジを生産していないため、地元の生産者に頼っている。このような場合、輸出業者は果実を梱包施設に輸送する責任がある。

オレンジの輸出シーズンは通常、アラビア湾岸諸国への出荷から始まり、その後ロシア、さらにEU諸国及び東アジアへの輸出が続く。エジプトのオレンジ輸出先国は、2021/22年度の104か国から2022/23年度には126か国に増加した。エジプト産オレンジの輸出先上位10か国は、オランダ、ロシア、サウジアラビア、インド、アラブ首長国連邦、スペイン、バングラデシュ、シリア、中国及び英国であった(図1)。

図1 エジプトの上位10市場へのオレンジ輸出量



出典：農業輸出協議会

2022/23年度のエジプト産生鮮オレンジの上位10か国への輸出量は、2021/22年度の97万4,252トンから22.8%増の約120万トンとなった。これは、EU市場におけるエジプトの主要な競合相手であるスペインへのオレンジ輸出の急増によるものであった。エジプト産生鮮オレンジのスペインへの輸出量は、スペインの干ばつによる生産量の減少により、2021/22年度の25トンから2022/23年度には8万9,414トンに増加した。シリアでの果樹園の老朽化と生産性の低下に伴い、同国への輸出も増加した。

**販売状況：** エジプトと南アフリカは、世界市場における主要なオレンジ供給国であるが、輸出時期が重ならないため、各市場で競合することはない。

(以下の記述は Trade Data Monitor, LLC のデータによる。)

**オランダ：** 2023暦年(1月～7月)のオランダ市場への輸出量は、エジプトが8万8,989トン、南アフリカが10万3千トンであった。モロッコのオレンジ輸出量の減少とスペインの不作により、オランダ市場へのエジプト産オレンジの輸出量が大幅に増加した。

**ロシア：** ロシア市場におけるエジプトの主要な競合相手はトルコである。しかし、消費者の嗜好により、2023暦年(1月～7月)のエジプトからロシアへの総輸出量は8万8,989トンで、同期間にトルコが出荷した2万8,991トンを大きく上回った。

**サウジアラビア：** サウジアラビア市場におけるエジプトの主な競合相手は従来からスペインであるが、2023暦年のサウジアラビア市場へのエジプトの生鮮オレンジ輸出量は7万9,232トンで、同時期のスペイン産の5千トンを上回った。

**インド：** インド市場ではエジプトの競合相手はいない。2023暦年(1月～7月)のエジプトの輸出量は5万6,357トンであった。南アフリカはインド市場に供給しているが、エジプト産と南アフリカ産のオレンジは生育時期が異なるため競合しない。

**アラブ首長国連邦(UAE)：**2023暦年(1月～7月)のUAEへのエジプトの輸出量は3万8,584トンであった。南アフリカはUAE市場に3万1,593トンを供給したが、エジプトと南アフリカのオレンジは生育時期が異なるため、UAE市場で競合することはない。

**中国：**2023暦年(1月～7月)のエジプトから中国市場への輸出量は2万9,294トンで、同期間に競合した米国産は1万7,566トンであった。

**英国：**英国市場におけるエジプトの主な競合相手はスペインである。2023暦年(1月～9月)のスペインから英国への生鮮オレンジの輸出量は6万2千トンで、同期間のエジプトから英国への生鮮オレンジ輸出量は2万560トンであった。

**バングラデシュ：**2023暦年(1月～7月)のエジプトからバングラデシュへの輸出量は4万9,620トンで、南アフリカは3,600トンのオレンジを同市場に供給したが、エジプト産と南アフリカ産のオレンジは生育時期が異なるため、この市場で競合することはない。

**表 エジプトのオレンジの生産需給統計**

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり エジプト	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	168,000	168,000	172,200	168,000	0	168,000
収穫面積(ヘクタール)	135,000	135,000	151,200	151,200	0	151,200
結果樹本数(千本)	12,910	38,570	13,910	43,200	0	43,200
未結果樹本数(千本)	10,000	1,000	10,000	1,000	0	1,000
合計果樹本数(千本)	22,910	39,570	23,910	44,200	0	44,200
生産量(千トン)	3,000	3,000	3,600	3,600	0	3,700
輸入量(千トン)	0	0	0	0	0	0
総供給量(千トン)	3,000	3,000	3,600	3,600	0	3,700
輸出量(千トン)	1,300	1,300	1,700	1,600	0	2,000
生鮮国内消費量(千トン)	1,400	1,400	1,600	1,700	0	1,400
加工仕向量(千トン)	300	300	300	300	0	300
総仕向量(千トン)	3,000	3,000	3,600	3,600	0	3,700